

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520397

研究課題名(和文) 鎌倉時代における日本漢音の位相的研究

研究課題名(英文) A Study of the Phase of Kan'on(漢音) in Kamakura Period

研究代表者

佐々木 勇 (SASAKI ISAM)

広島大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：50215711

研究成果の概要(和文)：

本研究によって、鎌倉時代という一時代の、京都という同一地域において、資料の位相差による漢字音の差が存することが判明した。その漢字音における位相差は、同一人物内においても、文献の性格・場の相違などの要因によって、存したことが確認された。これは、従来の研究では、推測されながら、残存する古文獻によって実証することができていなかった。それを明示できたことが、本研究における最大の成果である。

研究成果の概要(英文)：

By this study, it became clear in Kyoto of the Kamakura era that a difference of the pronunciation of a Chinese character by the phased difference of the document kept. In the same person, that a phased difference in the pronunciation of a Chinese character existed was identified as the character of documents by factors such as the difference in scene. While it was guessed in the conventional study, We were not able to prove this. It is the biggest result in this study that I was able to exhibit it.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：漢字音・漢音・位相・声調

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の必要性を感じたのは、直接には、以下の3点からである。

(1) 鎌倉時代の漢籍訓読資料『春秋経傳集解』等には、「垂」「隊」「累」等の漢字に対し、字音仮名遣いで誤りとされている「スキ」「ツキ」「ルキ」の表記が見ら

れる(佐々木勇「日本漢音における止攝合口字音の受容に見られる位相差」〈「国語国文」第73巻第7号、pp. 21-37、2004年)。

(2) 鎌倉時代の仏書訓点資料『大慈恩寺三蔵法師伝』の訓点には、声点が比較的少ない(佐々木勇「日本漢音声調の必要性の低下について」〈「国語国文」第71巻第2号、pp. 1-12、2002年) )。これは、字音直読資料『蒙求』『佛母大孔雀明王経』の実態と異なる。

(3) 鎌倉時代を生きた親鸞とその妻恵信尼の漢字音を比較した結果、拗音表記・四つ仮名表記・撥音表記などに相違が見られた(佐々木勇「日本漢字音史における位相的研究」〈「国文学」第48巻第4号、pp. 62-66) )。

上記の点から、研究対象文献を絞った全巻字音注の整理によって、上記以外に字音の位相差を指摘できることが予想された。

この点を、まとまった資料のデータによって確認し、考察したいと考えるに至った。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、鎌倉時代における日本漢字音のうち、特に漢音について、その位相差を記述することである。

そのために、もっとも規範的と考えられる漢籍訓読資料『春秋経傳集解』鎌倉期点と、もっとも非規範的と考えられる仮名文書中の漢語仮名書き例とを比較する。

この度は、研究資料を絞って、研究年度内に確実に成果を挙げることを目指した。また、研究期間も、4年間とした。

以上、本研究では、書陵部蔵『春秋経傳集解』全30巻および親鸞・恵信尼文書をはじめとする鎌倉時代仮名文書における字音注の整理・比較・考察を主目的とし、その研究成果に前回の科学研究費で得られた成果を加えた総合的な研究を目指した。

その上で、同時代の漢音に差が生じた原因を考察し、それらを総合的に研究することを本研究の目的とした。

## 3. 研究の方法

上記の研究目的達成のために、以下の具体的方法を採用した。

(1) 書陵部蔵『春秋経傳集解』鎌倉期点全30巻の字音注訓点を、電子化入力する。

これは、もっとも規範的と考えられる漢籍訓読資料である書陵部蔵『春秋経傳集解』全30巻鎌倉初期点をデータベース化するためである。

(2) 親鸞・恵信尼文書における字音注を、電子化入力する。

これは、もっとも非規範的と考えられる同時代の仮名文書中における漢語仮名書き例をデータベース化するためである。

(3) 『鎌倉遺文』所収仮名文書における字音注を、電子化入力する。

上記仮名文書データを補うためである。

(4) 上記のすべてを、それぞれ分紐分韻表として整理する。

これは、下の比較作業のためである。

(5) 上記の各分組分韻表を比較し、相違点を見出し、その相違の原因を考察する。

なお、両者の中間に位置付く、字音直読資料・仏書訓読資料・和化漢文訓読資料については、「鎌倉時代における日本漢字音の位相的研究」の研究課題で、平成16年度から18年度までに受けた科学研究費補助金(基盤研究(C))によって整理し、その成果をまとめて、公表している。

「鎌倉時代における日本漢字音の位相的研究」と題した前回の研究では、字音直読資料として『蒙求』鎌倉期点(二本)、漢籍訓読資料として書陵部蔵『群書治要』鎌倉期点、仏書訓読資料として京都大学人文科学研究所蔵『大慈恩寺三蔵法師伝』鎌倉期点、和化漢文訓読資料として久遠寺蔵『本朝文粹』鎌倉期点の調査をし、分組分韻表を作成することができた。

この度は、研究資料を絞って、研究年度内に確実に成果を挙げることを目指した。また、研究期間も、4年間とした。

以上、本研究では、書陵部蔵『春秋経傳集解』全30巻および親鸞・恵信尼文書をはじめとする鎌倉時代仮名文書における字音注の整理・比較・考察を主目的とし、その研究成果に前回の科学研究費で得られた成果を加えた総合的な研究を目指す。

#### 4. 研究成果

本研究によって、鎌倉時代という一時代の、京都という同一地域において、資料の位相差による漢字音の差が存することが判明した。その漢字音における位相差は、同一人物内においても、文献の性格・場の相

違などの要因によって、存したことが確認された。

これは、推測される結果ではある。しかし、その予想を残存する古文献によって実証することは容易ではなく、従来、予測に留まっていたことがらであった。それを明示できたことは、本研究における最大の成果である。

本研究の成果は、下の「5. 主な発表論文等」に記した『平安鎌倉時代における日本漢音の研究』研究篇・資料篇(2009年、汲古書院)などに公表した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計10件)

1. 佐々木勇, 親鸞聖人の仮名遣いについて, 浄土真宗総合研究, 第6号, 査読無, 2011, 印刷中

2. 佐々木勇, 親鸞遺文における「オハ」等の仮名遣い開始時期と異例について — 漢文の訓点における実態調査とその位置づけ —, 国文学攷, 第209号, 査読有, 2011, pp1-13

[http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/metadb/up/kiyo/AN00090146/kokubungakukou\\_209\\_1.pdf](http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/metadb/up/kiyo/AN00090146/kokubungakukou_209_1.pdf)

3. 佐々木勇, 西本願寺蔵『浄土三部経』正平六年存覚書写本の朱点について — 親鸞自筆加点本および龍谷大学蔵南北朝期加点本との比較 —, 訓点語と訓点資料, 第126輯, 査読有, 2011, pp34-48

[http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/metadb/up/ZZT00001/kuntengo\\_126\\_34.pdf](http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/metadb/up/ZZT00001/kuntengo_126_34.pdf)

4. 佐々木勇, 日本漢音研究の現在, 日本語学, 第 376 号, 査読有, 2011, pp. 28-36

5. 佐々木勇, 親鸞と明恵の漢字音 —漢字片仮名交じり文における比較—, 広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部, 第 59 号, 査読無, 2010, pp1-9

[http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/metadb/up/kiyo/AA11618725/BullGradSchEduc-HiroshimaUniv-Part2\\_59\\_446.pdf](http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/metadb/up/kiyo/AA11618725/BullGradSchEduc-HiroshimaUniv-Part2_59_446.pdf)

6. 佐々木勇, 専修寺蔵顕智本『浄土和讃』『正像末法和讃』の訓点について —専修寺蔵親鸞加點『三帖和讃』との比較を通して—, ことばとくらし, 第 22 号, 査読無, 2010, pp3-9

[http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/metadb/up/ZZT00001/Kotoba-to-Kurashi\\_22\\_3.pdf](http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/metadb/up/ZZT00001/Kotoba-to-Kurashi_22_3.pdf)

7. 佐々木勇, 鎌倉時代における漢字音の個人差 —親鸞と恵信尼との比較—, 古典語研究の焦点, 巻無し, 査読無, 2010, pp721-738

8. 佐々木勇, 大東急記念文庫蔵『仁王護国般若波羅蜜多經 卷下』(二五一五二—一〇六五)の字音点, かがみ, 巻無し, 査読無, 2009, pp7-9

9. 佐々木勇, 国宝本『三帖和讃』の研究資料と朱筆について, かがみ, 『増補 親鸞聖人真蹟集成』第三巻, 査読無, 2007, pp381-390

10. 佐々木勇, 院政末期・鎌倉初期の和化漢文訓読資料における漢音形, 国語教育研究, 第 48 号, 査読無, 2007, pp381-390

[http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/metadb/up/kiyo/AN0008801X/KokugoKyoikuKenkyu\\_48\\_70.pdf](http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/metadb/up/kiyo/AN0008801X/KokugoKyoikuKenkyu_48_70.pdf)

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 2 件)

1. 佐々木勇, 笠間書院, 専修寺蔵『選擇本願念佛集』延書 影印・翻刻と総索引, 2011, 302 頁

2. 佐々木勇, 汲古書院, 平安鎌倉時代における日本漢音の研究, 2009, 1758 頁

[その他]

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

佐々木 勇 (SASAKI ISAMU)  
広島大学・大学院教育学研究科・教授  
研究者番号: 50215711

(2) 研究分担者 ( )  
研究者番号:

(3) 連携研究者 ( )  
研究者番号: